



Service Above Self (超我の奉仕)
西那須野ロータリークラブ週報
 Nishinasuno Rotary Club Weekly

・角橋 徹 西那須野ロータリークラブ会長テーマ・

親睦と奉仕の喜びを共有し
 ロータリーを心から楽しもう

第2188回(本年度33回)2017. 4. 21



西那須野ロータリークラブ



R I テーマ
 人類に奉仕するロータリー
ROTARY SERVING HUMANITY



人類に奉仕するロータリー

地区テーマ
 元気なクラブ作りと
 誠実な職業奉仕



栃木県産のロータリー

**西那須野・塩原・黒羽ロータリークラブ
 合同例会**

ホテル花月にて

**幕府で活躍した大関増裕と
 幕末維新期の黒羽藩**

大田原市黒羽芭蕉の館
 学芸員 新井 敦史様

- 1967年 3月 群馬県富岡市に生まれる
- 1990年 3月 筑波大学第一学群人文学類卒業
- 1995年 3月 筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科単位取得退学
- 1995年 4月 黒羽町芭蕉の館(2005年10月以降、大田原市黒羽芭蕉の館)学芸員(現在に至る)
- 2011年 4月 大田原市文化財保護審議会委員(現在に至る)
- 2014年 7月 栃木県文化財保護審議会委員(現在に至る)

〈主要著書〉

- 『鹿沼市史通史編 原始・古代・中世』(共著、鹿沼市、2004年)
- 『栃木県の歴史散歩』(共著、山川出版社、2007年)
- 『下野国黒羽藩主大関氏と史料保存—「大関家文書」の世界を覗く』(随想舎、2007年)
- 『武士と大名の古文書入門』(天野出版工房発行、吉川弘文館発売、2009年)

〈主要論文〉

- 「室町期日光山の組織と運営」(『古文書研究』第40号、1995年)
- 「戦国末期～豊臣期における下野黒羽大関氏の権力構造」(『歴史と文化』第13号、2004年)

「もう一つの関ヶ原」(『知られざる下野の中世』随想舎、2005年)

「下野国黒羽藩主大関家における「御朱印箱」の保存措置について」(山本隆志編『日本中世政治文化論の射程』思文閣出版、2012年)



本日の例会プログラム

- 18:30 開会宣言・点鐘 角橋 徹会長
- 18:31 ロータリーソング
(それでこそロータリー)
- 18:33 お客様紹介 角橋 徹会長
- 18:34 米山奨学生奨学金授与(徐勝杰)
- 18:37 委員会報告 各委員長
- 18:39 幹事報告 鈴木 明裕幹事
- 18:41 会長の時間 角橋 徹会長
- 18:46 国際交流卓話 国際交流員
フロレンティーネ・ロンニガー様
- 19:06 スマイルボックス報告
太田 仁スマイルボックス委員長
- 19:10 出席報告 猪瀬康雄出席委員長
- 19:11 閉会宣言 点鐘 角橋 徹会長

講話内容

1 幕末期の黒羽藩と大関増裕への期待

- 黒羽藩…藩主大関氏、1万8千石、外様小藩
- 18世紀前半以降、藩財政の危機的状況～天保・弘化期(1830～48) 極貧状態
- 藩の実権・12代藩主大関増儀→一部の重臣層へ
- 嘉永元年(1848)、大関増昭(増儀の息子)、13代藩主に就任
～藩では農村荒廃状況への対応策として検地を実施
- 安政2年(1855)10月、江戸大地震→藩では臨時的に材木統制・買い占め策採用
→津田武前(物頭兼大吟味役) …「御領中板并諸材木御国産」(専売政策)に発展
- 安政3年(1856)、大関増徳(丹波国篠山藩主青山家出身)、14代藩主に就任
→藩の専売制度の廃止などを求めて百姓一揆
→増徳、妻お鉾(大関増昭の妹)を離縁
→重臣層による隠退要求→文久元年(1861)4月、座敷牢に監禁
- 文久元年10月、大関増裕(遠江国横須賀藩主西尾忠善の孫)、15代藩主に就任
 - ・お待(←お鉾が改名)を内縁の妻とする
 - *「夫婦して江戸町々を乗りあるき異国の真似する馬鹿の大関」
(増裕…西尾家時代から漢学・蘭学・西洋式砲術・馬術・槍術などを学んでいた)
 - ・文久2年(1862)4月8日、講武所奉行に就任
 - ・同年12月1日、陸軍奉行に就任し、講武所奉行も兼務
 - *「外様にて奉行なすのは珍しし横綱を張る肥後の大関」
 - ・文久3年3月15日幕府の公職を辞任→5月20日暇をもらう→5月27日黒羽入り

2 普裕の藩政改革

- 増裕による藩政改革…西洋流砲術を導入した軍制改革を中核
 - ・文久3年(1863)8月までに軍事演習場を整備
→9月から訓練実施
- 増裕による大胆な人事刷新(元治元年・1864)
 - ・家老大沼半太夫・滝田典膳・益子右近を罷免、大関弾右衛門・村上一学を家老に
 - ・藩の軍事部門や財政部門に若手中堅層を多数取り立てる
 - ・多くの家臣に軍学・英語・フランス語・西洋医学などを学ばせる
- 元治元年(1864)秋、11代藩主増業の「御伝書・御自筆」の整理・収納作業
=敬慕する増業の遺品を整理・保管し、その遺志を体して改革に臨まんとする

- 同年11月、天狗党による黒羽藩領内通過→増裕・藩兵を指揮し陣所を見回る
- 慶応元年(1865)6月、再び江戸へ～7月、海軍奉行に就任
- 増裕の指導による藩政改革は続行
 - ・慶応2年(1866)、農兵隊を組織
 - ・慶応3年(1867)5月、現実の兵隊組織を一般の黒羽藩の政治組織から切り離して独立させるという軍事面強化の最後の改革(=戊辰戦争を迎える軍事的態勢が整う)
- 軍制改革を支えるための財政基盤を強くするための施策
 - ・新田開発の奨励
 - ・鉾山開発
 - ・田畑に賦課する年貢率の引き上げ
→慶応2年(1866)10月～翌年正月半ば、増税に反対する百姓一揆
→黒羽藩…農兵隊を投入して一揆を鎮圧

3 再び幕府の要職に就任する増裕

- 幕府軍制改革最大の柱…全国規模の構想に基づいた大海軍建設
- 海軍奉行大関増裕…海軍組織の立ち上げのため奔走
 - ・軍艦を購入する際の西洋諸国との折衝
◇増裕が総責任者をつとめる形で購入された軍艦
…「富士山丸」・「甲鉄丸」(アメリカから)、「開陽丸」(オランダから)
 - ・フランス・イギリスから海軍の教官を招聘する交渉
 - ・横須賀造船所の建設事業
◇勘定奉行小栗上野介忠順の提案により、国内に本格的な西洋式造船所を建設することになり、フランス海軍の協力を得ながら、慶応2年(1866)3月、横須賀(神奈川県横須賀市)において造船所の建設工事が始まる
◇増裕…慶応2年7月～8月、自ら横須賀に赴き、現地視察及び踏査、写真撮影
 - ・海軍学校の規則を制定
- 僧裕の昇格
 - ・慶応2年(1866)8月4日、若年寄格(兼海軍奉行)
 - ・慶応3年(1867)正月19日、若年寄(兼海軍奉行)

4 大関増裕と勝海舟

- 西尾忠道(西尾家時代の増裕の名、後に忠徳と改名)と勝海舟の関係
 - ・杉純道(勝海舟門下の塾頭)に蘭学を学ぶ
 - ・万延元年(1860)、海舟から臼砲(モルティール砲)の図面を伝授される
- ☆勝海舟…増裕にとって蘭学と西洋砲術の道



の大先輩・師匠

○勝海舟略歴

- ・文政6年(1823)、江戸本所で旗本の勝家に生まれる
- ・嘉永3年(1850)、江戸赤坂で私塾を開く
- ・嘉永6年(1853)、海防意見書を幕府に提出し、幕府に認められ、長崎伝習所に派遣される(航海術・造船・測量などを本格的に学ぶ)
- ・万延元年(1860)、日米修好通商条約批准に際し、咸臨丸の艦長として渡米
- ・文久年間(1861~64)、幕府による軍制改革の検討の際、海舟は幕府による大海軍創設を構想し、実現のため奔走
 - 幕府…陸軍の創設・整備を先行することを決定し、海軍創設を見送る
 - その後の地道な努力により、幕府は海軍の創設を決定
 - 慶応元年(1865)7月、増裕が初代海軍奉行に就任、配下の軍艦奉行に海舟就任(海舟…文久元年(1861)講武所で砲術師範役をつとめており、翌年講武所奉行に就任した増裕のもとで仕えていた)
- *「大関とまた取組んだ麟太郎こんどの角力は急度勝安房」(庶民の期待感)

○勝海舟による増裕評

- ・「参政大関肥後公は、頗る気概あり」
- ・増裕の大いなる気概と志が活かしきれていなかった当時の幕府上層部の状況

○慶応3年(1867)10月の大政奉還により大きな衝撃を受ける増裕

- ・大関家の江戸屋敷に引きこもる→海舟は心配して様子をうかがいに増裕宅へ
- 〔慶応3年〕11月1日付勝海舟宛大関増裕直筆書状〔海舟訪問を感謝）
- …「外ならぬ御中ゆえ、胸裏包まず申し上げ候」(海舟への全面的信頼)
- 〔慶応3年〕11月28日付勝海舟宛大関増裕直筆書状
- ・増裕が老中から聞いた話(将軍徳川慶喜が幕臣の中でも特に勝海舟を高く評価してい

る旨を話していた)を伝える

- ・この難局を乗り越え、近い将来、日本国の新体制を設計する局面で大いに力を発揮してもらいたいと激励

5 増裕「急死」事件とその後の黒羽藩

〔慶応3年〕10月28日付浄法寺高譜宛大関増裕直筆書状

- ・徳川家の浮沈や大関家の存亡はこの時にかかっており、深く心を痛み、憂慮しているといった心情を吐露

○増裕と国許の城代浄法寺高譜との間における緊迫した書状のやり取り

- ・増裕…江戸での暴動に備えるため、藩兵・農兵隊を出府させるよう命令
- ・高譜…農兵の内心は恐怖の思いが強く、出府を嫌がっている。しかも今は年貢上納の時期にかかっているため、農兵の出府については様子を見ていただきたい
- ・増裕…とにかく今回は存亡に関わることゆえ、農兵たちにはいかようにも説いて聞かせて、江戸に差し向けるように
- 農兵の出府については当分見合わせるので、農兵に実地訓練を施すように

○増裕…11月半ば、近習三田深造・右筆佐藤均(密使)を京都に送り朝廷へ内通図る

☆外様の小藩としての生き残りを賭けた大胆な行動

○増裕の帰国と不慮の死

- ・在職のまま20日限りの帰国許可を得て、12月3日江戸発→12月6日黒羽城着
- ☆帰国の目的…農兵を実地検分し、大隊訓練を実施すること
- ・12月8日、遊猟に出掛ける
- ・12月9日、遊猟に出掛け、金丸八幡宮(那須神社)裏の雑木林で急死
- ・遊猟の供をしていた家臣の内の2人が1人ずつ尋問される

→判明した内容…増裕所持の「十三発込」の鉄砲が発砲

☆この日は増裕の満30歳の誕生日で、「王政復古の号令」が発せられた日

○増裕死後の黒羽藩

- ・慶応4年(1868)2月、下野の他藩に先がけ、家老五月女三左衛門を京都に遣わし、戊辰戦争における新政府軍としての出兵願いを提出
- ・増裕後嗣として、常陸国石岡藩主松平頼繩の甥泰次郎を迎える
- 慶応4年3月、増勤と名乗り、黒羽藩16代藩主に就任
- ・戊辰戦争において、農兵隊を含む黒羽藩兵は、慶応4年5月21日の出兵から、10月13日

の黒羽凱旋まで、東北地方を中心に戦功をあげる

- ・新政府軍が制圧した地域の取締り(奥州棚倉領とその周辺～奥州南部領=北奥県)
- ・明治2年(1869)6月、太政官より大関増勤に永世禄1万5千石給付
- ・同月、大関増勤、黒羽藩知事に就任
- ・明治4年(1871)7月、廃藩置県により黒羽藩は終焉を迎え、増勤は黒羽藩知事を罷免され、家族とともに東京へ

【主要参考文献】

- ☆小林華平『大関肥後守増裕公略記』1909年
- ☆蓮実長「大関増裕」(栃木県教育会『下野勤皇列伝前篇』皇国青年教育協会、1940年)
- ☆秋本典夫「黒羽藩」(『物語藩史東北・北関東の諸藩』人物往来社、1966年)
- ☆須永(阿部)昭「黒羽藩の藩政改革」(『栃木県史研究』6号、1973年)
- ☆須永(阿部)昭「黒羽藩」(『新編物語藩史第二巻』

新人物往来社、1976年)

- ☆黒羽町芭蕉の館第8回特別企画展運営委員会編『幕末・維新期の黒羽—130年前の世相—(図録)』黒羽町教育委員会、1998年
- ☆新井敦史「大関増裕『急死』事件」(『歴史読本』2003年11月号)
- ☆栃木県立博物館編集・発行『大関増裕—動乱の幕末となぞの死—(図録)』2004年
- ☆阿久津正二『大関増裕と勝海舟』復刻版、黒羽町教育委員会、2005年、初版は1974年
- ☆新井敦史『下野国黒羽藩主大関氏と史料保存—「大関家文書」の世界を覗く』随想舎、2007年
- ☆新井敦史『武士と大名の古文書入門』天野出版工房発行、吉川弘文館発売、2009年
- ☆新井敦史「幕末・維新期の下野黒羽藩」(『石川町史第二巻 通史編2 近代・現代』福島県石川町、2013年)
- ☆大獄浩良『下野の明治維新』下野新聞社、2014年

以上が講演内容です。

養徳園訪問
4.22(土)



	R	C	曜日	例会時間	例 会 場	電 話
姉 妹 友 好	パラニアック	東水原	月曜日	19:00	(D.3830) エルクスクラブ・コンベンションプラザ	82-31-238-7822 03-326-5800 048-475-1122 024-923-1165 0475-26-1515
	東水原	桃園	木曜日	18:00	(D.3750) 京畿道水原市八達区仁溪洞1030-2番地3階442-834	
	新座	山安積	金曜日	12:30	(D.3500) 福容大飯店	
	郡山	安積	木曜日	12:30	新座市東北2-25-11 第2かきの木ビル406号	
	茂原	中央	火曜日	12:30	郡山市山根町8-7 ベルヴィ郡山館	
近 隣 一 分 区	黒塩	磯原	水曜日	12:30	那須塩原市本町5-5 割烹石山	0287-62-0128 0287-35-2211 0287-23-4165 0287-78-6000 0287-24-2525 0287-54-1105
	大田原	中央	木曜日	12:30	那須塩原市折戸148 塩原カントリークラブ内	
	那須	須	木曜日	12:30	大田原市中田原2082-3 KATSUTAYA	
	大田原	黒羽	木曜日	12:30	那須町大字高久丙1 ホテルエピナール那須	
	大田原	黒羽	木曜日	12:30	大田原市中田原593-3 大田原温泉・龍城苑	
	黒羽	黒羽	金曜日	12:30	大田原市黒羽向町2 ホテル花月	

事務所 いろいろ家 那須塩原市扇町7-12 例会日 火曜日 12:30 例会場 いろいろ家 那須塩原市扇町7-12
☎0287-36-0028 FAX36-2854 ☎0287-36-0028

※4月のロータリーレート 1ドル102円